

# 今、いちばん気になる統計は？

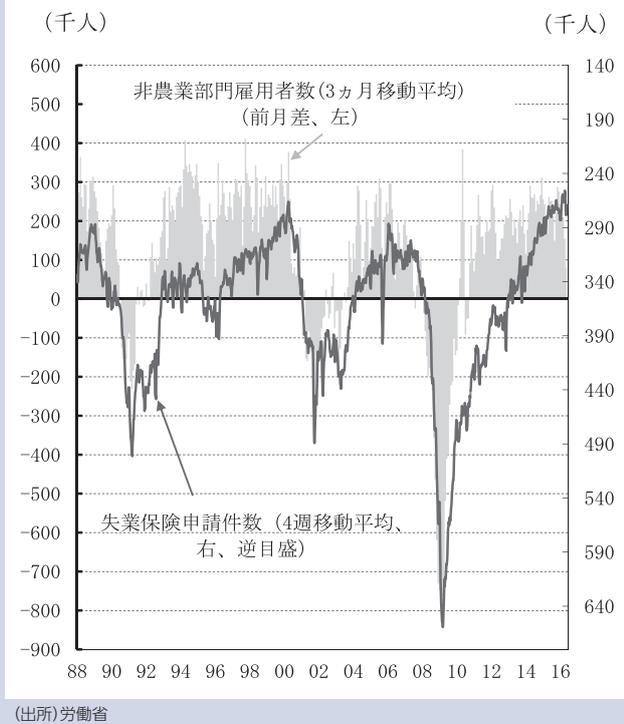
## 米国の新規失業保険申請件数

米国の景気・雇用情勢をみるとき、非農業部門雇用者数、失業率、平均時給上昇率など多くの重要な情報が含まれる“雇用統計”が重視される。ただ、景気・雇用情勢の変化に限れば、雇用統計より早く正確に示す統計として、失業保険申請データがある。雇用統計は翌月の第一金曜日に公表される速報性の高い月次統計であるが、失業保険新規申請件数は、週単位のデータであるうえ、申請された週の翌週木曜日には公表される。過去失業保険新規申請件数(4週移動平均)が底打ちし急激に増加すると景気減速・雇用の鈍化を示し、36万件を上回って増加すると景気後退に陥っている。

6月4日に終わった週の失業保険新規申請件数は、26.4万件と景気・雇用情勢が良好なことを示している。しかし米国の景気拡大が長期化するなかで米国経済を取り巻く環境が徐々に悪化しており、同統計の動きに注目すべきだろう。

(経済調査部 桂畑 誠治)

### 資料 雇用動向



## 編集後記

このところアメリカの利上げ時期を巡って金融市場が揺れている。思い返してみれば2013年5月バーナンキ議長がQE3のテーパリングに言及。そこから世界中の金融市場は右往左往しながらアメリカの金融政策の正常化のタイミング、影響を議論し相場に織込むという作業を続けた。そしてFRBは2014年10月のQE3終了から14ヶ月かけ2015年12月利上げを実施した。

利上げ後はそのスピード、レベルを巡ってまた議論百出。マーケット、特に株、為替といったリスク性資産のボラティリティーが高い状態が続いているが、驚くほど安定した動きをしているのが米国債市場である。QE終了から利上げという局面では債券市場は大荒れになるだろうという事前の見通しは大きく外れることになった。

昔から米国債市場を見ていれば間違えることは少ないと言われてきた。基軸通貨US\$をバックにアクセスしやすい市場に圧倒的な規模と流動性と信用力、市場参加者が多く洗練された投資家も多数。だから米国債市場の動きは世界の金融市場のシグナルだと。その米国債、利上げ局面は始まったばかりだと言うのに10年金利は1%台後半で安定した動きを見せている。最近ではアメリカでも潜在成長力の低下、労働生産性の低下といった構造問題が議論される機会が増えているように感じる。やはり米国金利の低位安定はシグナルなのだろうか？ (H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。